

# =市史編さん便り= 【41号】 令和4年11月7日(月) 発行.

\*\*\*\*\*土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

## ◎令和4年度後半から令和5年度末の

### 市史発刊までの刊行進捗計画(概要)

令和4年11月7日、現在の『新市史(通史編)』の執筆進捗状況をご報告させていただきます。「第13章地勢・地質地形」「第14章植物」「15章動物」が8~9月に、「第7章戦争遺跡」「第8章同和教育史」が10月末に無事ゲラ前原稿の提出がなされました。この原稿は1~2月中にゲラに刷り上がり、校正作業を精力的に進めていくことになります。

残る原稿は「第11章防災史」「第12章民俗伝承」の2章分です。これを執筆している担当編集委員の支援をしつつ、年度内にその原稿提出をめざして継続して取り組んでいきたいと思えます。「通史編」は7月末を目途にすべてのゲラの提出を行う計画です。

一方、『新市史(資料編)』は、基本7章構成で編集していきます。11月現在、「資料編」のすべての章がまだ調査中ですが、第2章~第6章まではできるだけ年度内にゲラ前原稿を提出していただけるよう、執筆する編集委員や執筆協力員の方々をお願いをしています。そして、「資料編」の校了を来年11月末までにと考えております。

#### ◎『新市史』「通史編」「資料編」の刊行計画表

編 章	執筆分野	担当	令和4年度					令和5年度										
			令和4年11月まで	12月~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
通史編	第1章 考古	出原恵三	ゲラ刷上・校正中	⇒⇒⇒校了														新土佐清水市史刊行
	第2章 古代	東近 伸	ゲラ刷上・校正中	⇒⇒⇒校了														
	第3章 中世	東近 伸 松田直則	ゲラ刷上・校正中	⇒⇒⇒校了														
	第4章 近世	田村公利	ゲラ刷上・校正中	⇒⇒⇒校了														
	第5章 近現代	田村公利 吉本工心	ゲラ刷上・校正中	⇒⇒⇒校了														
	第6章 以南偉人伝	田村公利	ゲラ刷上・校正中	⇒⇒⇒校了														
	第7章 戦争遺跡	出原恵三 大原純一	ゲラ前原稿提出	ゲラ刷上⇒校正⇒校了														
	第8章 同和教育史	浜岡 篤	ゲラ前原稿提出	ゲラ刷上⇒校正⇒校了														
	第9章 学校教育史	谷岡暁美	ゲラ刷上・校正中	⇒⇒⇒校了														
	第10章 市政史	武藤 清	ゲラ刷上・校正中	⇒⇒⇒校了														
	第11章 防災史	岩井拓史	ゲラ前原稿執筆中	ゲラ刷上⇒校正⇒校了														
	第12章 民俗伝承	岩井拓史	ゲラ前原稿執筆中	ゲラ刷上⇒校正⇒校了														
	第13章 地勢・地形地質	今井 悟 土井恵治	ゲラ前原稿提出	ゲラ刷上⇒校正⇒校了														
	第14章 植物	森口夏季	ゲラ前原稿提出	ゲラ刷上⇒校正⇒校了														
	第15章 動物	新野 大 吉川貴臣	ゲラ前原稿提出	ゲラ刷上⇒校正⇒校了														
資料編	第1章 中世文書	東近 伸 山下晃弘	調査実施・執筆	ゲラ前原稿提出	ゲラ刷上												資料編総原稿提出	
	第2章 近現代文書	田村公利	調査実施・執筆	ゲラ前原稿提出	ゲラ刷上													
	第3章 中世石造物	海邊博史ほか	調査実施・執筆	ゲラ前原稿提出	ゲラ刷上													
	第4章 中世山城上空写真	松田直則 吉成承三	調査実施・執筆	ゲラ前原稿提出	ゲラ刷上													
	第5章 近世石造物/自然災害碑	濱田真尚 唐岩淳子	調査実施・執筆	ゲラ前原稿提出	ゲラ刷上													
	第6章 学校資料	日長裕昭ほか	調査実施・執筆	ゲラ前原稿提出	ゲラ刷上													
	第7章 食文化	田村公利 吉本工心	調査実施・執筆	ゲラ前原稿提出	ゲラ刷上													
その他	序文など(市長・教育長・編集委員長)			原案検討	原案起案												原稿提出	



↑秋晴れの土佐湾興津崎方面の海上(白皇山頂上から)



↑白皇山頂上の護摩壇岩(白皇山・山頂 433m付近)

### 【白皇山登山を行って・・・編集後記】

昨日 6 日(日)、夫婦で足摺岬の白皇山(433 m)に登山した。今月 27 日 9 時から NPO スポーツクラブ・スクラムの主催するスポーツハブ事業で「白皇山への親子登山」のイベントがあり、その下見をするためだ。高知県山岳連盟理事で元中浜小学校長・福山勇作先生と共に、私はその講師を依頼されている。福山先生は主に登山のこと、私は白皇山の歴史についてガイドする。足摺岬・白皇山の麓が生まれ故郷で幼い頃より数えきれないくらい白皇山に登っている。母方の祖父や伯父は、麓での農業の傍ら、白皇山の山腹で、炭焼きも行ってた。



↑山中にあった「ヤッコ草」

登山は、麓からではなく、足摺スカイラインの標高 300m 付近にある白皇神社鳥居から山道に入った。最初の山道は、猪の沼田場であり、地面が非常に荒らされていた。旧白皇神社跡を越え、山道を上がり、無事に山頂の護摩壇岩まで登った。眼下に大谷集落が見え、遙か興津崎が見え、秋晴れの土佐湾海上を見渡すことができた。

「行きはヨイヨイ帰りは怖い」という童話がある(「通りゃんせ」)。上りが無事だったことから、妻と共に帰り道を油断し、慣れた道を間違えて、思いがけず道に迷ってしまった。「上り道」と、「下り道」は景色を見る視点が異なる。結果、景色がまるで違って見えてしまう。要注意。

これは人生にも当てはまるのではないだろうか。50 歳を越え、人生のターニングポイントとなり、これまでの数々の経験から人生を達観したように慢心してしまう。そこに大きな落とし穴がある。折り返しの人生であるからこそ基本に立ち返り、迷ったときは大胆にもう一度、元の位置に戻る慎重さが必要だろう。方向が間違っていないという確信があったので、妻と共にひたすら山を下った。ほどなく足摺スカイラインを走行する自動車のエンジン音がかすかに聞えてきた。なんとか無事に車まで戻ってこられた。

山に入るときは、「16 時以降に入らない」「16 時になったら山を下りる」・・・中世山城を調査したときに故・前田和男先生が私に教えてくださった言葉である。この言葉の意味をよくよく考えながら、妻と反省しつつ家路に着いたことであった。(田村)